

令和元年度 第1回健康増進計画策定委員会

日 時：令和2年1月29日（水）13：30～15：15

場 所：総合センター2階 交流ルーム

出席者：所 俊彦、武内 尚博、新井 美佐子、上嶋 昭子、江崎 明子、
砂田 桂子、棚瀬 友啓、名和 めぐみ、林 孝美、林 春代、
森 清一、吉村 隆子

欠席者：植屋 節子、長屋 紀美江、林 仁

1 あいさつ

（事務局）

皆様こんにちは。定刻となりましたので、第1回健康増進計画策定委員会を開催させていただきたいと思っております。本日はお忙し中どうもありがとうございます。よろしくお願いいたします。

それでは初めに、市長、森和之よりご挨拶を申し上げます。

（市長）

皆様、改めましてこんにちは。今日は平成31年度第1回の健康増進計画策定委員会ということで、皆様お正月明けのお忙しい中お集りいただきまして、誠にありがとうございます。今年も始まって今日で29日目ですが、今朝も大変暖かく10度くらいあるというような天気予報でした。伊吹山も本来ならこの時期は山頂が真っ白ですが、本当にかすかに白い部分があるだけということで、今年は本当暖かいです。しかし、武漢の新型肺炎で、今日もまた、向こうから飛行機で戻られる方のことがニュースでやっております。また、県内では羽島市で対策会議が立ち上がりましたが、瑞穂市も今日の16時から対策会議を立ち上げます。市民の皆様にとどのような対策をしていたらよいかということをお知らせするという、対策本部ではなく、その前の立ち上げをしていきます。

また今年、オリンピックイヤーということで、東京オリンピック、パラリンピックがあります。瑞穂市に関しては朝日大学のフェンシング部とホッケー部で2人か4人の候補が、この春先までには内定されるということで、これもしっかり応援していきます。

また、岐阜県で今年「ねんりんピック岐阜大会2020」が10月の終わりから11月にかけて、各市町村でそれぞれの種目が開催されます。瑞穂市ではソフトテニスといきいきオレンジビクス体操の会場となっておりますので、こちらもどうしても成功させなければならぬと思っています。

さらに10月1日を基準とした5年ごとの国勢調査の年にあたっています。1920年に始まってちょうど100年目ということで、今年は調査項目が多いと伺っております。瑞穂市、市政をひいて16年になりますが、昨年11月に5万5千人を超えました。いま5万5千200人程かと思いますが、絶対にその人口より下回らないと思っています。これから5年間、その人口によって国からもらえる交付税の算定が変わってきますので、皆様のお力を得て国勢調査も進めていかなければならないと思っています。

今日皆様にお世話になる、健康増進計画の策定にあたっては、この健康福祉部で4つの計画があります。福祉の最上位計画で地域福祉計画、それに基づく高齢者の計画、障害者の計画、そして健康増進計画が来年度策定ということで、今年度準備ということになります。もう一つ、瑞穂市の最上位計画の「第2次総合計画」も今年後期計画の策定の年になりますので、その後期計画の策定にあわせたスケジュールを令和2年度で出させていただきます。総合計画が最上位計画にあたるので、それに間に合うようにこの計画を作ってください必要があると思います。そして今年、3つの目標をたてました。この計画の中にもSDGsというのを取り入れた計画をたてていただきたいです。17のアイコン、169のターゲットと言われています。そちらについて詳しくは説明しませんが、担当がある程度勉強してわかっていると思いますので、一人も取り残さないようなまちづくりを今年度の目標に掲げておりますので、また皆様गत、この計画策定の中でお世話になりますが、よろしくお願いいいたします。

長く話しましたが、今年度と、来年度お世話になりますが、皆様2月6日に任期がきますが、引き続きお世話になることを願ひまして、冒頭のご挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございました。

2 委嘱状の交付

(事務局)

今回開いております健康増進計画策定委員会は瑞穂市付属機関設置条例に基づいて設置しております。15名の方に策定委員を委嘱させていただいておりますが、15名のうち2名の方につきまして人事異動等の理由により、本日新たに2名の方に委嘱状を市長より交付させていただきたいと思ひます。新井美佐子様。

(市長)

委嘱状、新井美佐子様。瑞穂市健康福祉計画策定委員に委嘱します。任期は令和2年2月6日までとします。令和2年1月29日瑞穂市長、森和之。

(事務局)

吉村隆子様。

(市長)

委嘱状、吉村隆子様。以下同文で省略しますが、お世話になりますが、よろしくお願いいいたします。

(事務局)

本日新たな委員を加えた最初の会議となりますので、皆様に自己紹介をお願いしたいと思ひます。所会長さんからよろしくお願いいいたします。

3 会長あいさつ 自己紹介

(所会長)

座ったままで挨拶だけさせていただきます、皆様こんにちは。策定委員会ですが、市長からいろいろ詳しくお話を伺いまして、皆様と心を新たにして頑張りたいと思います。先ほど新型コロナウイルスの話が出ておりましたけど、降って沸いたように新年度になってからきましたが、瑞穂市でも帰ってこられている方がおりますので、注意が必要です。皆さん、どこでも条件としては一緒だと思います。できれば皆さん、なるべく電車には乗らない、バスには乗らない、自分のマイカーを使ってなるべく人がいない時に買い物して帰ってくるつもりでないとどうなるかわかりません。まだ瑞穂市もいまから委員会を開くという段階ですので、県の医師会も保健所もなかなか定まっておられません。保健所所長の会合でもまだどうしていいのかという話が決まっていない段階ですので、この段階で発病するとひどい目にありますので、なるべく皆さんご注意ください。

では自己紹介させていただきます。私は穂積駅の北のところ、保育所の南側で41年前から内科を開業しております。専門は循環器科でございます。医師会の仕事をしております関係でこの会で会長をさせていただいております。よろしく願いいたします。

(武内委員)

皆さんこんにちは。もとす歯科医師会会長をやっております武内でございます。この会では副会長を任命されております。どうぞよろしく願いいたします。

(名和委員)

瑞穂市社会福祉協議会から参加させていただいております名和です、よろしく願いいたします。

(林(孝)委員)

瑞穂市PTA連合会の林でございます。日頃、子どもたちの見守っていただいておりますこと、感謝申し上げます、ありがとうございます。

(林(春)委員)

瑞穂市食生活協議会から来ました、林です。よろしく願いいたします。

(森委員)

皆さんこんにちは。瑞穂市自治会連合会の副会長をやっております、森清一と申します。よろしく願いいたします。

(吉村委員)

岐阜保健所の吉村と申します。よろしく願いします。県もヘルスプラン岐阜ということで、第3次の県の健康増進計画によりまして、健康増進を担当させていただいております。

すので、瑞穂市さんの健康増進計画と合わせて、ともに県民の皆さんの健康増進を支援していくということで、委員として少しでも役立てればと思っております。新型コロナウイルスの肺炎のことで、医師会、歯科医師会にはそれぞれ国の文章を配布、お知らせをさせていただきますけど、今のところ各保健所、県の保健所と県の保健医療課、それと岐阜市の保健所で相談窓口をさせていただいております。一応、怪しい渡航歴とか、武漢の方と何らかの関わりがある方で症状があるという場合は、まず保健所にご連絡をいただくという形で今進めさせていただいております。また今後とも情報は提供させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(棚瀬委員)

こんにちは。もとす薬剤師会の棚瀬と申します、よろしくお願いいたします。

(砂田委員)

瑞穂市民生委員会協議会から来ました。砂田桂子と申します、よろしくお願いいたします。

(江崎委員)

瑞穂市養護教諭部会からきました、巣南中学校の養護教諭の江崎と申します。よろしくお願いいたします。

(上嶋委員)

上嶋と申します。私は毎日、牛牧学童で 100 人近くの子どもたちと元気に過ごしておりますが、いま所先生がおっしゃいましたように、去年からインフルエンザで休校する学校と、それから今は感染症で学級閉鎖になっているところもあります。いろいろ勉強してお役に立てるとうれしいです。よろしくお願いいたします。

(新井委員)

先ほどご紹介いただき、委嘱いただいたのですが、瑞穂女性の会の代表の新井です。以前委員会では、棚橋会長が受けさせていただいていたと思うのですが、お亡くなりになった後、私が代表を受けることになりました、お世話になっております。策定委員会ということで、今日は緊張して出席させていただいておりますので、まだ勉強してからでないと皆さんにご意見という形ではお答えできないと思いますが、お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

(事務局)

それでは事務局から自己紹介をしたいと思います。申し遅れましたが、私は市役所の健康福祉部長の平塚と申します。大変お世話になりますけれども、よろしくお願いいたします。

(事務局)

健康推進課長の加納です。よろしくお願いいたします。

(事務局)

健康推進課の河合です、よろしくお願いいたします。

(事務局)

同じく、健康推進課の堀です、よろしくお願いいたします。

(事務局)

議題に入る前に、前回開催は先ほどご指摘いただいたように、平成30年2月7日で行いました。本委員会で中間評価を計画、修正していただきまして、瑞穂すこやか未来設計図計画修正ダイジェスト版というのを作成し、全戸配布を行い、以降は取り組みを進めているところでございます。本日の委員会では現状を報告させていただいて、今後の推進計画につきましてのご審議をいただきたくお願い申し上げます。なお、上屋様からは本日の会のご欠席の連絡を受けておりますことを、お伝えさせていただきます。

申し訳ありません、市長ですが公務のためここで退席をさせていただきます。

(市長)

皆さん、よろしくお願いいたします。ありがとうございます。

(事務局)

それではレジュメにお示ししました議題につきまして、所会長様、ご審議をよろしくお願いいたします。

4 議題

(1) 計画期間の変更、今後の取り組みについて

(所会長)

それでは早速、議題に入りたいと思います。まず1番目に「計画期間の変更、今後の取り組みについて」、事務局からご説明いただきたいと思います。

(事務局)

《事務局より資料に基づき説明》

(所会長)

何か、いまの説明につきましてご質問等ありますか。

今年の6月にアンケートが終わった後、それでもう終わりということですか。またその

後も会議はあるのですか。最終評価して、それで終わりですか。

(事務局)

最終評価のあと、第三次の健康増進計画の策定に移っていきたいと思っております。

(所会長)

わかりました。要するに今年度の、9年に短くなったものの最終評価をここで終わって、そのあとは新たな計画を進めるということですね。ではまた何回か会議はあるということですね。

(2) 第2次健康増進計画最終評価に向けての現状について

(所会長)

2番目の「第2次健康増進計画最終評価に向けての現状について」ということで、事務局からご説明をお願いします。

(事務局)

《事務局より資料に基づき説明》

(所会長)

ありがとうございました。非常に詳細に書かれていますが、内容は疑問符がつくところが多いです。皆様なにかご質問等ございますか。

30年度というのは全般的に評価が落ちていきますよね、28年度とかと比べますと。どういうわけか、22年度から28年度は上がっていますね。30年度をみると落ちているのが多いですよね。32年度の目標値というのは前に決めた目標値でしょうからそれが合わないのは当たり前かもしれませんが、30年度と32年度の差が大きいので、32年度絶対に目標達成できないですよ。なぜ、30年度はそこまで落ち込んだのかというのが気になります。原因は分析してありませんか。

(事務局)

がん検診の受診率についてですが、胃がん検診や子宮がん検診は受診率については下がっている現状です。

(所会長)

現状は見ればわかります。対応をいつも分析していたわけですよ。なぜ、こういうところが悪かったから次年度やろうとか、対策はないのでしょうか。

(事務局)

未受診の対策については先ほども言ったように、受診勧奨の年齢というのを各がん検診のがんの発症年齢であったりとか、それぞれのがん検診に合わせて年齢設定をさせていただいているところですが、やはり現状値としては下がってきているところがあるので、より受診の勧奨であったり、再々勧奨をやっていくというようなことは検討しているということです。ただ現状として、未受診の対策を案内通知でやっていたところでは、不足していたので、先ほどの保育所の通知の勧奨やそれ以外の関係機関への周知のお願いとして、医療機関や歯科の医療機関、調剤薬局なども含めて、勧奨はがん検診やグッドライフの検診のターゲット層がより来るところを、もっと掘り下げてやっていかないといけないと考えております。

(所会長)

ありがとうございます。前から言っていますが、昨年のデータと比べておかしいと思ったら、すぐに次年度に向けて対応を練らないと、ここで「対応を考えております」と言われても何にもなりません。下がる理由をもう一度考え直して分析しないと、次期また同じことになります。達成できないような目標をかかげたのであれば、いかに達成できるかということを根本から考え直さないといけません。新しく考えるのであれば、この9年間の実績でなぜこの程度しか伸びなかったのかを分析して、地に足がついたような形の計画を立てないと意味がないと思いますので、よろしく願いいたします。

(上嶋委員)

市内小学校の朝食の摂取率ということで、私は放課後児童クラブで朝から夕方まで入っているのですが、こういうことは気になるのですが、朝は子どもたちにまず「朝ごはん食べてきたか」ということを聞いてみます。そうすると、これではすごくいい数字が出ているのですが、食べてきていなくて、10時のおやつを待っている子が多いです。お腹がすいていると分かります、目も元気がないし、なんとなく苛立っているような子はたいてい朝ごはん食べていないと思うのですが、子どもたちははっきり言えないから、子どもたちに「どうして朝ごはん食べてこられないの」と聞くと、「お母さん寝ているもん」という声が多いです。子どもは統計からの数字だけでなく、ごはんが食べられない子がどうやったら食べられるようになるかというところまで、突き詰めてほしいと思います。

また、市民センターの中のサーキットですが、私もたまにトレーニングに行きますが、利用者が増加して5,000人以上の方が登録しているとありますが、もっと多いと思います。私はもっとずいぶん前に登録したので300番台ですが、それ以降の人たちがきちんと使えば、この数値ではないと思います。名簿を見ていると、だいたい同じ人が来ているわけです。やはり、どうやったら市民のみんながこのサーキットを利用してくれるか、健康のためにどうやったらここがいっぱいになるのかなという、紙面の上だけでなく、本当に市民の皆さんがよろこんで来ることができるサーキットにするにはどうしたら良いかなというところを、考えていただけるとありがたいと思います。

(所会長)

ありがとうございました。大変参考になる、現場の声ですね。非常にありがたい話だと思います。本当にそういうことができるかどうかはともかく、そういう話があるということはいいことだと思うので、よろしくお願いします。

(棚瀬委員)

A1cの測定は薬局薬剤師も関与できるような制度になりましたが、一番上の6.1以上の方が2.2%だということですが、この指標よりも、いわゆる未測定者、いわゆる測定者率はどのなのでしょう。A1cを測るのは健康オタクの方が多いですね。本当はサーキットトレーニングに行けていない人をどう引っ張ってくるか。「私はそんなことできない、わからない」という方をどう受診させるかということで、この指標ではヘモグロビンA1cを測定者率にする。当然、6.5を超えたら受診勧奨して、医者の手にかけることが大事で、それがいわゆる腎障害、透析を未然に防ぐということが大事かと思います。

それと、国保特定検診ですが、社保の瑞穂市住民の方もターゲットにした方がいいと思います。私もいま60歳で社保ですが、もうそろそろ引退ということになると、国保になります。ヘモグロビンが6.3%となると、必然的に瑞穂市の国保が圧迫されてくるということになってきます。系統的に難しいかもしれませんが、社保の瑞穂市民ということであれば、必要と思います。

それとがん検診ですが、なぜこんなに低いのかと思います。先生、このがん検診はふつうの検診の別日ですか。

(所会長)

別です。特定健診は血液検査、身体測定ありますけど、がん検診は、市が頼んで車が来てそこでやっています。大腸がん検診だけが医療機関でやっているということです。あとのがん検診は、言われるように伸び悩んでいます。合併してからややこしくなっているそうです。旧穂積の住民が巢南のレントゲン車へ行ってくださいと言われるそうですが、お年寄りなんかは行けません。やはり胃がん検診は、住民40歳以上たくさんみえますが、現実問題として医療機関で内視鏡受れたり、そういう人は抜いていいわけです。しかし、だれが受けたか分からないから、100%の中で受けた人だけ引くと4%とか5%になっていってしまう。実際もっと受診率は高いと思います。医療機関で受けたことも含めてですけど、胃がん検診が4.3%というのは実際ではないとは思いますが、低いことは事実です。

(武内委員)

私から一つ、無料歯科検診の判定者が減少するということですが、無料歯科検診というのは節目検診のことですか。

(事務局)

無料歯科というのが、口腔保健協議会の方から来ていただいている先生方に協力していただいているものですが、乳がん検診の時にやっている、口の中の検査です。節目検診とは違います。

(武内委員)

これは女性対象のみということですか。

(事務局)

そうです。前は無料歯科で男女問わずに行っていましたが、会場が集団検診で行っている乳がん検診になると、女性限定になっていくということになってきているので、実質は乳がん検診に参加された方がそのまま無料歯科を受けていただいている現状です。

(武内委員)

無料検診もそうですし、皆さんも受けられたことあるかもしれませんが、節目検診といって40歳から5歳きざみの歯科検診もあるのですが、それも40歳からですし5歳きざみですから、なかなかこの3番の、年に1回健康診断を受ける人が増加するという項目ありますが、歯科に関しては5年に1回しか国保の人も受けられない。社保の人は全くその対象外となっていますが、もう少し歯科も手厚くしてもらわないと、お口のことが放りっぱなしのように私は感じます。確かに症状が出だすのは40歳以降ですが、皆さんもご経験だと思いますが、悪くなってから「しまったな」と思ってももう戻りませんので、もう少し早い時期、しかも5年と言わずもっと何とかならないかなというのが、私としては非常に気になるところです。

これは非常にテクニカルな話になりますが、要治療が減少すると書いてありますが、要治療という分類も、どうしても要治療にマルを付けざるを得ないという状況があるので、もし要治療を減らしたいのだったら、要観察だけではなく、要管理とか別の言葉を付けたい。例えば歯石がついていたら放っておいていいのか、観察になっても、歯石がついたままだったらどんどん歯周病が進んでいってしまうので、どうしても要治療にマルを付けます。その辺も工夫されると、事務局の方が好ましいと思う数字が出てくるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

(所会長)

事務局さん、何か意見ありますか。

(事務局)

この計画を策定するとき、当課でもっていた成人の歯科に関する数字というのが、歯科医師会の協力のもとにやっている無料歯科検診の結果しかなかったのですが、この時にはそれを指標として用いてきましたが、先ほど堀が説明しているように、8年9年と経ってきたときには、当初は男の方の受診もあったけど、検診の場を乳がんに設定したために、だんだん受診される方が女の人だけに偏ってしまい、これを本当にここの数字でもっていいのかという悩みと、先生が言うように一部の人にしか受診の機会がないものを、評価の数値として持ってきていいのかという迷いがあって、今回はすべての妊婦に受診機会がある妊婦歯科検診の受診率というのを河合が持ってきた次第です。市の歯科としては、瑞穂市はありがたいことに、歯科医院が非常にたくさんございます。そこで、乳幼児期か

ら、妊娠期の歯科検診もそうですが、早い段階からかかりつけ歯科医をもちましよう。内科医や薬局もそうですが、まずは自分のところのホームドクターを、歯も医療も薬局についても持ちましよう。そしてそこで、手厚く半永久的な管理を相談していただきながら、専門的な指導を受け、という指導を特に歯科については最近行っております。市が行政で何かをするよりも、先生と直の間柄で定期健診を受けてもらったり、早い段階の治療を受けていただくことで、市長が申しておりますように、9020を目指していくというところで、市としては健康な歯を保っていくために、歯科以外の分野で、噛む力をどうやったら維持できるかとか、いろいろな分野で何をしたら9020が達成できるかというところを試行錯誤しているところですが、それらの具体的な案につきましては、次期第3次計画の中で是非盛り込んでいただくよう、ご審議していただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

(林(孝)委員)

2番の朝食の摂取率のところですが、市内小学校2校、市内中学校1校とありますけど、これは平成22年度から特定の小中学校をターゲットしぼって追跡調査しているのでしょうか。それから16歳以上のところ、高校生以上となってくると思いますが、若年層健康診査および特定健診の間診からとありますが、実際に何人受けられてのパーセンテージなのでしょうか。数字は出ないかもしれませんが、お願いします。

(事務局)

先ほどの各学校の追跡調査についてですが、学校の会議の時に提示された数字というのがありまして、そこについて追跡調査をその学校と行っているというものではないです。健診の受診者数については、特定健診については人数がわからないですけど。

(林(孝)委員)

どちらかだけでもいいですよ。

(事務局)

若年層検診については平成30年度の実数が700人となっています。そのうち30、35、38歳については先ほどの平成30年度の現状値の244人ということになります。

(林(孝)委員)

ちなみに市内小学校・中学校の対象校数を増やしていかれる、市内小学校・中学校全校対象ということはしないのでしょうか。

(事務局)

評価方法について、各学校実施アンケートとなっていますが、平成30年度についてのアンケートを使っているということで平成28年度の間評価では実際のアンケートから拾っている現状がありまして、アンケートについては小中学校対象のアンケートを行っていきますので、それをもとにまた評価していきたいと思っております。

(事務局)

健康推進課でやった小中学校のアンケートではないです。教育委員会からお借りした資料です。

(所会長)

気になるのが、16歳以上というのは高校生ですよ、いまの若年者の健診は20歳以上ですよ。なぜ20歳以上の人で16歳以上の高校生という判断ができるのか。高校生にアンケートはとっていないですよ、20歳以上の若年の健診を受けた人たちにアンケートをとっているわけですよ。

そして、健診を受けるような人はだいたい健康に対して関心が高い人なので、当然朝ごはんを食べている人も多いですよね。関心が高い人にアンケートをとって90%、100%という数字がでて何もなさないと思います。食べていない人たちのことをよく知りたいのであって、食べている人たちに対して、成績で4か5ばかり取っている人に対して算数の問題を出しているようなものです。やはり、そこはアンケートの取り方が違うのではないかという気がします。

(事務局)

平成28年度の間実績値までは、このあとご審議いただく、市内で無作為抽出をかけた方のアンケートの結果が入っているのですが、平成30年度の現状値は空白になっていると思うのですが、まだ数字が入れられなかったもので、一番右に小中学校の実施アンケートで見た数値を出させていただいております。最終評価はアンケートで16歳以上の方できちんと出していきたいと思えますし、そのアンケートの中でもし朝食についてももう少し具体的に、特に食べていない人は聞いた方がいいのではというご意見がありましたら、次回のアンケートの検討をいただく中でご提案をいただければ、相談ができるかと思っています。

(所会長)

何人くらい出したのですか、不特定多数ですよ。

(事務局)

今回は2,000人です。

(所会長)

各年代ですか。

(事務局)

このあと言いますが、一般と小中学生というように分けますけど。前からアンケートの数のことは言われていますけど、統計学上はその数で大丈夫だと言われているので、そのくらいでとらせていただきます。

(所会長)

他にありますか。

(吉村委員)

県の健康増進計画でも、すでに項目というのは、第2次健康促進計画ですでに指標として決めていらっしゃるの、あとはこれを何の数値で評価するかというのは流動的だったのでしょうか。決まってはいたのですかね。

(事務局)

はい。

(吉村委員)

ただ、先ほどから先生方が言われたようにこの項目では網羅できないのではないかと、いうところがあるならば、やはりこの数値でこの部分は評価できるが、ここはできないので次回アンケートで確認します、というのを今日お示しいただけると多分皆さん議論がしやすかったかもしれないなと思います。やはり県でもいつもとっている項目を、ここの指標の目安にするということで、やはり数値指標をきっちり決めておかないと評価ができないと思うので、分析評価でどうなのかということまでをある程度明確にしてもらえると良いかなと思いました。指標を決めるというのは難しいと思いますが、ある程度目に見えて、課題がそこではっきりすれば次の計画につながられると思うので、ぜひ指標のところをまたお示しいただければと思います。

(所会長)

ありがとうございます。我々が先ほどから言っているのは結局そういうことで、次回10年間の指標を作るのに、前もってほしい評価を決めておくわけですね。この9年間の間、この点が抜けていたねというのを指摘されているので、次期の作成の時に、「これについてはこういう評価をするために、毎年こんなことをやりましょう」というような内容を決めていかないと、また同じようなことが起きてくるので、面倒かもしれませんが10年間、こういう方針でこういうアンケートでずっと行きましょと、前もって決めてしまうことが必要になってくるので、今ここで皆さんにいろいろご指摘いただいているのだと思っただけです。吉村さんそういうことでよろしいですね。

(吉村委員)

そうですね。

(所会長)

他に何かご意見はありますか。

(棚瀬委員)

アンケートの回収率はいかがでしょうか。

(事務局)

前は50%を切っています。

(棚瀬委員)

良い方だと思うのですが、やはり少しでも返ってくる策があるのかなど、いわゆる飴玉があるのかと思います。

(森委員)

アンケートのやり方とか、対象者とかもいいですが、この数値が下がっている根本的な原因が何かというところを考えないといけません。要はこの健康増進をどうしたいのか、やはり数値を上げたい、それならば下がっている原因がどこにあるのかということきちっと解明して、それに対して具体的に対策をとっていかないとはいけません。

(所会長)

ありがとうございます。

過去のデータにつきまして皆様にいろいろご意見いただきました。次に移りたいと思いますがよろしいでしょうか。

(3) アンケート内容について

(事務局)

《事務局より資料に基づき説明》

(所会長)

ありがとうございました。何かこのアンケート内容についていかがでしょうか。

(武内委員)

このアンケート内容は次回の会議の時で、まだ変更はきくのですね。次回会議で意見を申し上げればよろしいわけですか。

(事務局)

できれば3月にアンケート調査を行いたいと考えているので、26日の会議ではもう決定をしたいと思っているので、その前には委員さんにアンケートを送らせていただいて意見を聞いて、それを反映したものを26日には出そうと思っています。またそこで意見が出たらそこで修正はさせていただきますけど、なるべく26日は完成度の高いものをお出ししたいと考えています。

(武内委員)

少しだけリクエストを出してよろしいですか。歯科に関する事になってしまいますが、

見てみると、歯に関することばかりなので、摂食とか嚥下のことがほとんど他の食事のところを見ても抜けているように思います。摂食・嚥下の内容もどこかで入れられると、いまの流れとしては入れたほうがいいのではと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(所会長)

私の方から少し言わせていただきますと、まず間食の頻度の「頻度」という言葉は使わないといけないのですか。一般の人には「頻度」という言葉は難しいと思いますので、「回数」だとかもう少し分かりやすくしてください。

先ほど、胃がん検診の健診率が違うのではないかという話をしましたが、そういうことを知るために、胃がん検診の項目のあとに、どこかの医療機関で胃の検査を受けたことがありますとか、そういうのを取ると、ある程度出てくると思います。

また、欠食をすることがある、間食の頻度とか書いてありますが、例えば頻度だけでなく、何を食べているかが問題になってくると思います。内容的には「果物」「お菓子」「ジュース」いろいろありますよね、間食を取っていても中身によっては全然違うと思います。例えば、朝ごはん食べない人が、お菓子でカロリーを摂っているかもしれないし、親が帰ってくる前にどこかで買って食べているかもしれないし、具体的に分かるような形でのアンケートにしないとイケません。面倒かもしれませんが、何を知りたいかということを考えないと、ただ形式的に回数とかでは内容が全然分かってこないのではないかと思います。

(事務局)

ありがとうございます。確かに頻度とか分かりにくい言葉だったりするので、その辺は市民に分かりやすい表現に変えます。そして、何を聞きたいか、事務局側で具体的にします。

(所会長)

例えば、間食していますよと言われても、それでアンケートを終わってしまってもいいのですか。間食ってなんだろうかと思わないですか。

(事務局)

例えば小中学生で、具体的におやつで何を食べているかというので、「チョコレート」「スナック菓子」を設問で聞いています。

(所会長)

それが歯医者さんの方に関係してくるかもしれませんが、そういうことも含めて。

(事務局)

はい、検討します。

(所会長)

今のアンケートだと本当に表面の建物の外枠だけ取っている気がします。どなたかご意見ございませんでしょうか。

(江崎委員)

小中学校のところのアンケート内容ですが、小中学生の健康で一番大事にしているのが、生活習慣の食と睡眠ですが、最近はやはり世の中が変わってきているなというのがあって、学校の中でもメディアが与える影響というか、そういうのが問題になってきています。睡眠時間が小中学校でも全体的に少なくなっている原因のひとつに、スマートフォンを持っている子がすごく多くなっているから、急激に生活習慣を変えている原因があるように思います。もし可能であるならば、メディアが与えている影響というのを調べていくことによって、生活習慣の全容がわかる場所があるかもしれません。

(事務局)

ありがとうございます。

(所会長)

歯科の「歯を磨きますか」というのも、一日何回磨くかというのを具体的に書いていないですね。朝だけ磨く人もいるだろうし、毎食磨いている人もいるだろうし。

(事務局)

中高生には聞いています。

(林(考)委員)

アンケートは個人宛てに郵送されると思いますが、保護者の方によっては子どもの生年月日を書く欄がありますが、名前がわかっている段階で生年月日もわかっているのではないですか。これは何に使うのですかというお問い合わせがくるのではないかと心配です。学年を書く際に、小学校中学校にマルを付けずに学年だけ書く人がいるかもしれないので、2行に分けて、小学校何年生、中学校何年生で分けた方がいいのではないかと思います。江崎委員からお話ありましたように、どこかで、睡眠時間が遅い理由は何ですか、何時間スマートフォンを使っていますかなど新しい設問を作れたら今後の資料になってくるのではないかと思います。ご検討ください。

(事務局)

はい。

(新井委員)

私、初めてなので分からないでお聞きしたのですが、先ほど 2,000 人の方に無作為でアンケートを配布して、回収率が 4 割、5 割に満たないということでした。それを考えると、小中学生、幼児、一般と人数的にばらつきが出てくると思います。例えば対象の小中学生を 1 校に定めてはいけないと思いますが、そこでアンケートをとった方が回収率としては高いのではないのでしょうか。回収内容についても具体的に答えていただけるのではないかと思います。郵送でアンケートをとるとというのは意外と皆さん、すごく苦痛になるところもあると思うので、小中学生で無作為にしたら回収率ももっと減るのではないかと思います。

(事務局)

前は小学生 300 人で、回収 146 なので 5 割弱ですね。

(新井委員)

300 人を対象としてもしやるのであれば、どこか小学校一か所を対象として、名前は無記名にして、何年生というようにすればもう少し回収率もいいのではないかと思います。

(事務局)

モデル的に市内で地区を選ぶ方法というのが、無作為抽出で、市としての計画を立てていくときにふさわしいと捉えていいのかわかりません。小さな市ですし、状況もそんなに変わらないとはいえ、やはり駅近のところは核家族化が進んでいたり、昼間親がいない家庭が多かったり、二世帯・三世帯の同居率とかいろいろな差がある中で、どこか一地区を選んだ数字を用いていいかというのも不安はありますので、統計担当課の職員に相談をかけさせていただいて、回収率との兼ね合いで検討させていただきたいと思います。

(所会長)

今日は時間何時までですか。

(事務局)

15 時です。

(所会長)

すみません、私は 15 時半だと思っておりました。すみません、何かありましたらまた後でという形になりますが、その他ということで何かありますでしょうか。

(4) その他

(上嶋委員)

歯の話ですけど、先日テレビで歯というのは、嚥下するとか、お口が開かないとか、お

口が臭いとか、ここにはないことが出ていました。せっかくアンケートとられるのでしたらもう少し研究されてはいかがでしょうか。アンケートの設問が歯のことばかりになっていきますが、口の中の病気というのをもっと広く考えてアンケートを作成していただけたらいいかと思います。

(所会長)

ありがとうございます。関連して言えば、嚥下障害や誤飲・誤嚥が増えているとか、そういうこともあるかもしれませんね。

他にご質問等ございませんか。

事務局にお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。大変貴重なご意見をたくさんいただきました。河合が説明しましたように、電話でも何でも結構ですので、送られたアンケートについてご意見があればぜひともいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。市長も先ほど申し上げましたが、皆様に委嘱しております任期が2月6日で切れてしまいます。次回、2月26日13時半から15時の予定でアンケートをお見せする会を開きたいと思っておりますが、このままお残りいただけない、次の委嘱は難しいという方がいましたら、閉会后一声、かけていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。閉会に際しまして、部長からご挨拶をさせていただきます。

(事務局)

本日は大変お忙しい中に来ていただきまして、またご審議いただきまして、ありがとうございます。所先生、武内先生、特にありがとうございました。いま事務局で申し上げましたとおり、今後このアンケート案につきまして皆様方にお送りいたしまして、またご指導ご指示を賜りたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。委員さんの任期につきましても、できればこのまま更新させていただきたいなと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日は本当にお忙しい中、貴重なお時間をいただきまして、ご審議いただきましてありがとうございました。これをもって閉会をさせていただきます。ありがとうございました。

以上